

U 医科診療科紹介
放射線診断科

放射線診断科は、病院の中央診療部門としてCT・MRI・核医学を中心とした画像検査の実施と診断を行い、また、血管造影とその技術に応用したIVR（インターベンショナルラディオロジー）を施行しています。現在、60名を超える診療放射線技師、22名の放射線部看護師と共に当科の放射線診断医が画像診断とIVR業務に従事しており、昨年の画像診断実績はCT：32,225件、MRI：6,923件、核医学7,518件でした。

画像診断技術に応用した低侵襲治療法であるIVRについての当科の診療、ならびに新しい治療法の開発として原発性アルドステロン症に対する低侵襲治療について紹介します。

当科で施行しているIVR

腫瘍や出血、外傷に対する血管塞栓術は救急を含め対応しています。内臓動脈瘤や肺動静脈瘻のような特殊な疾患は当科入院にてIVR施行いたしますのでご紹介ください。血管拡張術、動脈内薬剤注入用のカテーテル

留置術、骨粗しょう症の椎体形成術、骨腫瘍のablation、CTガイド下の各種生検やマーカー留置、ドレナージ、静脈サンプリング、ステントグラフト後のエンドリーク塞栓、BRTO等多くの種類のIVRに対応しています。

新しい治療法の開発：
アルドステロン産生腺腫の
ラジオ波焼灼術

高血圧症の10%程度と言われる原発性アルドステロン症は、副腎からのアルドステロン過剰分泌が原因です。当科はその確定診断技術であ

Medical Department

る選択的副腎静脈サンプリングを実施できる全国屈指の施設で、確定診断後は病側副腎を泌尿器科にて鏡視下に全摘出することで高血圧症の軽快・治癒が可能です。当科ではIVR技術を用いたより低侵襲な治療法開発にも取り組んでおり、CTガイド下にラジオ波焼灼針を副腎の腺腫に穿刺して焼灼する方法の開発を行い、現在、腎高血圧内分泌科と協力して医師主導治験を実施しています。

お問い合わせ：
放射線診断科医局 022-717-7312



血管造影室でのCTガイド下ラジオ波焼灼術



放射線診断科医局員

w i t h

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.32

2015年2月13日発行



ニュース

小児腫瘍センターを設立しました

当院は、小児がん診療の地域拠点として、東北ブロックから唯一小児がん拠点病院に選定されました。小児がん拠点病院とは、難治性あるいは専門的診療を必要とする小児がん患者を集約して診療に当たる施設で、国の「がん対策推進基本計画」に整備が盛り込まれております。小児がん患者の長期的予後は年々向上しておりますが、まだ進捗期あるいは難治性疾患の予後の改善が望まれており、病気を克服した後の復学支援や生活の質向上のための長期的フォローアップも重要になります。

当院では、その一環として東北大学病院がんセンター内の組織に〈小児腫瘍センター〉を設立いたしました。入院から外来までの包括的な小児がん医療を提供することを目的とし、各科の協力に基づいた診療と、長期フォローアップや緩和医療、成人診療科との連携を強化して参ります。

2015年1月末には西5階病棟に新たにセミクリーン域（セミクリーン個室6床と新規プレイルーム）が完成し、易感染状態の患者の入院環境が一段と改善します。付き添い者の簡易ベッドの購入を行い、長期入院が必要な保護者の負担をなるべく少なくする努力をしております。また、小児がん診療に関わる医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、院内学級教師、保育士、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種スタッフが情報を共有し、小児がん診療に関わるスタッフや診療設備の充実を図って参ります。

小児がん診療に尽力されております関連診療科、関連病院の方々におかれましては、病気を克服する全ての小児がん患者のために、今後ともご協力と患者さまのご紹介をどうぞよろしくお願い申し上げます。
(小児科 笹原 洋二)

News



小児腫瘍センターホームページ
www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp

お知らせ

東北大学病院 開設百周年記念
第12回 東北大学病院市民公開講座

大学病院が取り組む脳の病気

参加費無料

日時：2015年6月7日（日）13時～

場所：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）

講演：当院医師らによる基調講演・ゲストによる記念講演・パネルディスカッション

イベント：開設百周年関連のイベント・展示等

東北大学病院は、2015年、
開設百周年を迎えます。

当院は、関係者の皆様のお力添えにより、2015年7月14日、開設百周年の記念すべき年を迎えます。

百周年ウェブサイト：
www.hosp.tohoku.ac.jp/100th/

Information



東北大学病院開設百周年
The 100th anniversary of Tohoku University Hospital

ロゴマークの2つのゼロは「患者と医療従事者」、「先進医療と地域医療」、「過去と未来」を表しています。東北大学病院百周年を、これまで歩んだ軌跡とともに、前進し続ける2つの車輪に象徴します。

編集後記

今年は一ひつじ年。羊は群れをなし行動します。当センターでも看護師、ソーシャルワーカー、事務職員と職種の違う職員が30名近く働いています。羊のようにチームワークよく業務にあたっていきたいと思えます。また、今年には当院開設百周年の年でもあります。2回の市民公開講座でお祝いの企画を立てていきます。今年もよろしくお願いたします。（地域医療連携係 高橋京）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は、地域医療連携センターまでお問い合わせください。

特殊診療施設紹介 臓器移植医療部

当院は、心・肺・肝・腎・膵・小腸・膵島・角膜・皮膚の全臓器と組織移植が実施できる認定施設となっております。臓器移植医療部は、臓器移植を円滑に実施し期待される成果をあげることで、院内外との横断的な協力体制を構築し維持すること、レシピエント移植コーディネーターを通して移植希望患者、移植待機患者、移植実施患者に対する医学的、社会的、精神的サポートの実践を目的として2002年に設立されました。2014年12月15日現在の総移植件数は、脳死移植103件(心臓10件、肺70件、肝4件、腎1件、膵腎7件、小腸8件、膵島3件)、生体移植234件(肺12件、肝161件、腎58件、小腸3件)が実施されました。この間には、同日に3名の患者に4臓器移植が実施され、当時としては本邦初の出来事となりました。

また、臓器移植に関する院内業務のほか、患者や生体ドナーの方からご講話をいただく講演会の企画、院外活動の一環として臓器移植に関する啓発活動に積極的に取り組んでおります。各種の移植に関したイベントに

参加させていただいたり、仙台市内の小中学校へ「いのち」や移植を学ぶきっかけ作りを目的とした出張授業や高校生の施設訪問見学の受け入れを実施しております。

また、去る2014年11月28日には、当部の記念講演会を開催致し、里見進東北大学総長に「臓器移植の事始め」と題して当院での移植歴史、臓器提供意思表示カードの普及にご尽力されたお話し、震災時の移植など移植でご苦労されたことについて特別講演をいただきました。

現在、当部は部長、副部長、レシピエント移植コーディネーター3名、事務員2名という構成で取り組んでおります。

各臓器に関するお問い合わせや移植実績などの詳しい内容は、当部のホームページをご参照ください。

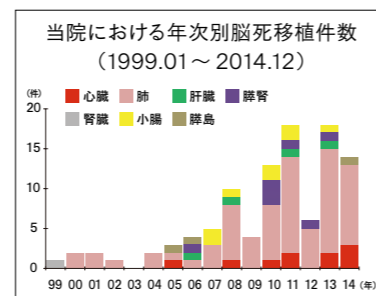
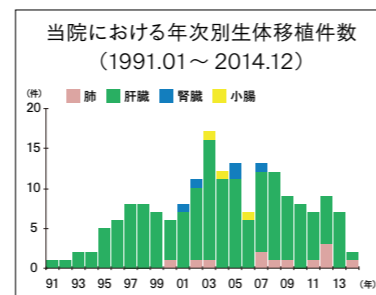
www.ishoku.hosp.tohoku.ac.jp/index.html

今後、さらに臓器移植が身近な医療として根付くよう、日々努めてまいります。(レシピエント移植コーディネーター/齋藤尚子)

月のドナーからは、本邦では2例目となる脳死下肺ラ島移植も実施されました。移植を受けたレシピエントの経過については、日本臓器移植ネットワークから定期的に報告されています。

2014年11月28日、歯学会会議室で小児脳死臓器提供シミュレーションを行い、高度救命救急センターをはじめ、脳死判定関係者、倫理委員会関係者、手術部、小児科・移植関連診療科、地域医療連携室、医事課、総務課に加えて、日本臓器移植ネットワークからも参加していただき、約2時間にわたり実施しました。(写真)また、同時期に6歳未満の小児脳死ドナーから臓器移植が行われたとの報道があり、時宜を得たシミュレーションとなりました。小児ドナーにおいて

Facility



記念講演会で講演する里見進総長

は、児童虐待がないことが必須事項で、反省会では児童相談所からの情報提供、倫理委員会開催のタイミングについて問題提起がありました。関係された皆様には、この書面を借りてお礼申し上げます。

これから臓器移植医療の支援活動を積極的に進めてまいりますので、ご協力宜しくお願いいたします。(臓器移植支援室/藤盛啓成)



小児脳死臓器提供シミュレーション

臓器移植支援室の活動

当室は、2013年11月当院の臓器提供時の現場支援、臓器移植医療の啓発を目的に設置されました。室員は、藤盛 啓成室長(医療安全推進室)、遠藤 智之副室長(高度救命救急センター医師・スキルスラボ)、院内臓器移植コーディネーター5名に加え総務課・医事課から2名の総勢9名です。当院は全ての臓器移植が可能な施設であり、臓器を受けて移植するだけでなく、提供にも力を入れようという下瀬川 徹病院長の方針に添ったものです。

当室が稼働直後の2014年1月・3月と続けて脳死下の臓器提供がありました。これで、当院の臓器提供は4例、脳死提供は3例となりました。3

認定看護師紹介 / 新生児集中ケア認定看護師 加藤 早奈恵 (かとう さなえ)

新生児集中ケア認定看護師は2014年12月現在341名が活動しています。私たちは急性期かつ重篤な状態にある新生児の「生きる力」をご家族とともにサポートさせていただいています。

2013年の出生数に対する、出生体重が2500g未満の低出生体重児の出生率は9.6%でした。出生数は年々減少していますが、低出生体重児の割合は増加傾向にあると報告されています。

私が所属する新生児集中治療室(NICU)では、救命だけではなく新生児が家族の一員として、その素晴らしい人生をスタートできるように、医師や看護師、理学療法士、心理士、保育士、社会福祉士など他職種チームで支援しています。新生児が心地よく過ごせる環境を整えたり、オムツ

交換や体重測定等ひとつひとつのケアを新生児の修正週数や個性に合わせて方法でスタッフとともに実践しています。また、発達を促進するケアを理学療法士や保育士とともに考えています。その中で認定看護師は、新生児の特徴や反応、家族の希望を踏まえ、看護の視点でどのようにケアを導入していくかコーディネートしています。

新生児のこころを受け止め、ご家族と思いを共有しながら、家族もサポートチームの一員としてケアに自然に参加するような愛情いっぱいのNICUを目指しています。

私は今年でNICU勤務10年目を迎えます。認定看護師を目指したきっかけは担当させていただいた新生児とご家族との関わりでした。新生児の成長を喜んだり、時には悔し

い思いをしたこともありましたが、様々な出会いの中でたくさんの学びをいただき、スタッフに支えられてきました。認定看護師として3年目となりますが、まだまだ学ぶべきことがあります。ひとつひとつの出会いを大切に、実践を積んでいきたいと思っています。



歯科診療科紹介 / 小児歯科 子どもの歯科治療について

当院歯科部門小児歯科は、小児における口腔疾患の全般に対応しております。

特に歯科治療が初めてで不安である、あるいは上手にできないと言う場合においても、それぞれの発育段階に応じたトレーニングを実施し、歯科治療を受け入れられるような環境を提供しております。また、たくさん齲蝕(虫歯)があり、治療が難しいお子さんでも、歯科麻酔疼痛管理科と連携し、全身麻酔下での歯科治療により、短期間で治療を終えるようなシステムも構築しております。さらに、乳歯と永久歯の生え変わりに関する歯並びの問題、障がいをもった患児の治療、上唇小帯や舌小帯などの外科的な修正、過剰歯の抜歯、離乳食の進め方や間食等の食事指導や口腔清掃指導など、子どものお口の

中のさまざまな問題を解決し、楽しい食生活を営めるようにスタッフ一同努力しておりますので、何かございましたらいつでもご相談いただければと思います。

また、積極的に地域の歯科保健活動にも取り組んでおります。保育園、幼稚園、小中学校等での歯科保健管理プログラムの構築や、教職員やスタッフへの小児歯科に関する知識の提供や実技指導(年齢に応じた歯のブラッシング指導法等)も行なっておりますので、必要がありましたら遠慮なくお申し付けいただければと思います。

Dental Department

私もは、地域の歯科医療に貢献していきたいと考えておりますので、何卒よろしく申し上げます。(小児歯科 科長 福本 敏)

